

令和7年度 第1回
柏市教育福祉会館（ラコルタ柏）
運営協議会_資料

■日時

令和7年8月21日（木）
午後1時30分～3時

■場所

ラコルタ柏 4階 集会室

次第

- 1 開会挨拶
- 2 委員紹介
- 3 会長及び副会長の選出
- 4 柏市教育福祉会館（ラコルタ柏）について
- 5 議題
 - 議題 1 令和 7 年度事業計画及び実施状況
 - 議題 2 教福連携事業について
- 6 事務連絡
- 7 閉会挨拶

委員名簿

五十音順，敬称略
令和7年8月現在

氏名	所属等
赤 松 夏 子	柏ドリーム手話ソング
伊 藤 嘉 章	柏市立富勢中学校校長
岩 立 和 男	柏市柏中央地域ふるさと協議会会長
岩 永 牧 人	柏市地域生活支援センター所長
金 子 洋 子	柏市民生委員児童委員協議会副会長
坂 上 彩 子	ママパパBOUSA I ライフ代表
杉 山 協	公募委員
丹 間 康 仁	国立大学法人 筑波大学 人間系教育学域 准教授
堀 内 美穂子	学校法人江戸川学園 江戸川大学 社会学部人間心理学科 教授
森 雅 貴	特定非営利活動法人イシュープラスデザイン ディレクター

出席職員名簿

所属	役 職	氏 名
生涯学習部	部 長	宮 本 さなえ
生涯学習部 生涯学習課	課 長	田 中 義 通
生涯学習部 中央公民館	館 長	村 山 勝 利
福祉部	部 長	矢 部 裕美子
福祉部 福祉政策課	次 長	渡 邊 浩 司

事務局

- ・ 福祉部 福祉政策課
- ・ 生涯学習部 中央公民館
- ・ 柏市社会福祉協議会

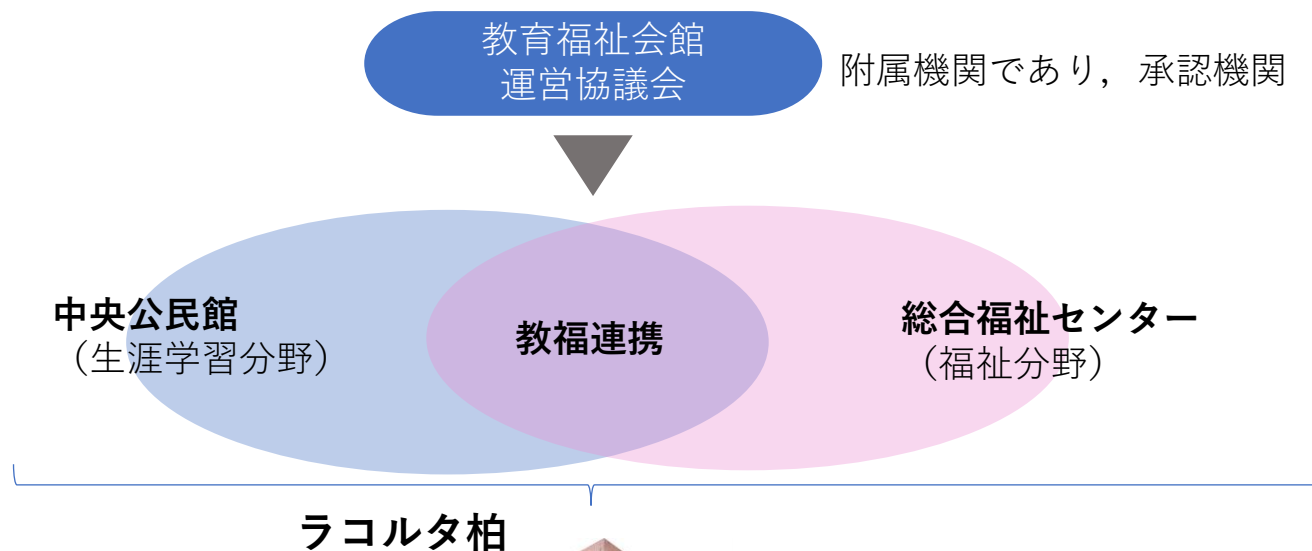
4 柏市教育福祉会館（ラコルタ柏）について

教育福祉会館（ラコルタ柏）設置目的

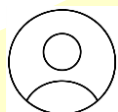
柏市教育福祉会館条例（昭和56年条例第11号）第1条

- ・ 多様な市民が集い、つながり、及び地域へ広がるための環境を提供し、並びに市民による **自立的な地域活動を推進**することにより、**教育及び福祉の相互充実を図る**とともに、**地域共生社会を実現**するため、教育福祉会館を設置する。

公民館運営審議会
（R7年度～休会中）
※生涯学習に対する会議体は、3つ存在し、その内、公民館運営審議会と教育福祉会館運営協議会で審議いただく内容が重複している部分が多いことから事務の効率化を図り、休会とした。



行政



ラコルタ柏
コーディネーター



市民と行政、市民とラコルタ柏をつなぐ役割

市民



5 議題

議題 1 令和 7 年度事業計画及び実施状況

- (1) 中央公民館事業
- (2) 総合福祉センター事業

ご議論いただきたい主な視点

各事業や、事業の全体感について、工夫・強化したほうが良い点などのご意見をいただきたい

議題 2 教福連携事業について

- (1) ラコルタ柏フェスティバル開催に向けた進捗報告
- (2) 事業推進委員会（ＪＳＩ）について

5 議題（1）令和7年度事業計画及び実施状況

令和7年度 事業・イベント 年間予定及び実施回数（令和7年6月末現在）

項 目 [中央公民館]	年間 予定	実施 回数
生涯学習事業		
①生涯学習講座	13	2
②自主活動・地域 活動支援講座	5	1
ラコルタ柏交流事業		
①講座型	3	1
②イベント型	9	0
③通年型・しかけ づくり	7	7
合計	37	11

項 目 [総合福祉センター]	年間 予定	実施 回数
多世代交流	61	35
子育て	46	9
児童健全育成	30	1
フレイル予防	21	3
障害理解・支援	9	0
居場所・相談支援	142	28
ボランティア育成	2	1
展示	56	4
合計	367	81

5 議題 (1) 令和7年度事業計画及び実施状況

令和7年度事業計画・中央公民館

概要

令和6年度から従来の年齢等による事業区分ではなく生涯学習として一本化し、ラコルタ柏交流事業との2つの事業区分で展開しています

区分	ねらい	講座名/型	想定する講座や内容
生涯学習事業	第4次柏市生涯学習推進計画で示される柏市が目指す生涯学習像「笑顔と元気が輪となり広がるまち柏～学びを通じた地域活性化～」を推進する	生涯学習講座	・夏休みこども教室(7月28日～8月5日 6講座) ・片づけワザと整理ワザ! 【3回(4月～6月)】 ・スマホの基本 【4回(5月～6月)】 ・認知症世界の歩き方(8月6日) ・ふるさと交流都市とのオンライン講座(10月18日) ・デジタル活用支援推進事業 スマホ講習会(会場:中央公民館) 【3事業者5回(10月～R8.2月)】 ・味でつながる郷土料理 【3回(12月～R8.2月)】 ・動けるカラダ 笑顔の毎日 【2回(R8.1月)】
		自主活動・地域活動支援講座	・知ることからはじまる私のまちin西原 【3回(R7.3～5月※R6に1回目実施)】 ・酒井根地域スマホ講座 【3回(7月～8月)】 ・デジタル活用支援推進事業 スマホ講習会(会場:各近隣センター) 【3事業者4回(11月～12月)】 ・暮らしの中の魅力発信教室 【6回(9月～R8.2月)】 他1件
ラコルタ柏交流事業	ラコルタ柏のコンセプト「誰もが集える みんながつながる 地域へ広がる」の実現のため、交流の継続やコミュニティ形成を目指し、集いのきっかけづくりやしくみづくりを意識して、教育と福祉の融合による講座等を交えながら事業展開を図る	講座型	・体感!世界をめぐる旅(ホワイトボード企画)(5月27日) ・コミュニティリンクワーカー養成講座 【4回(12月～R8.1月)】 ・ガーデナー養成講座 【3回(10月～12月)】
		イベント型	・ラコルタ柏フェスティバル 11月8日, 9日 ・わくわく人形劇まつり 11月23日 ・こどもダンスパフォーマンス! (ホワイトボード企画)(8月28日) ・N A ラボ～ラコルタ柏の深堀空間～(初回8月28日, 冬・春休みに実施予定) ・ぼうさいかるた 9月20日 ・もしバナゲーム+哲学対話 9月27日(会場:高田近隣センター) ・劇場の集い 令和8年2月13日, 20日
		通年型・しかけづくり	・ホワイトボード交流事業 ・えがおのBUTUBUTU交換 ・お昼に届けるminiライブ ・館内装飾ワークショップ ・ラコルタ柏ガーデニング ・ぬり絵体験 ・学習スペース設置事業

5 議題 (1) 令和7年度事業計画及び実施状況

【中央公民館・活動実績】 ホワイトボード企画

実施のねらい

季節のイベントごとにテーマを決めて、テーマに沿って来館者にホワイトボードへ自由に書き込んでいただき、思いの発信だけでなく、来館者同士の交流を目的に行っている。その中で、テーマを「ラコルタ柏と一緒にやりたいことを教えて!」と設定した際に書き込まれた声を実現していくことで、ホワイトボード事業に双方向性を持たせるもの。

活動の結果 (R7年7月時点・実施中)

実施回数 2回



活動の成果 (参加者の反応・やって見えたこと・わかったこと)

【わかったこと】

・「お菓子を作りたい」などの書き込みから3月26日に「焼きドーナツに春をデコっちゃおう」, 「地球一周の旅」の書き込みから5月27日に「体感! 世界をめぐる旅」を実施。来館者の要望を実施した企画であったことから、双方とも募集人数に対して2倍以上の応募があった。

【参加者の反応】

・受講者アンケートからも満足度が高く、似たような講座の実施を望む声が多かった。

【やって見えたこと】

・単発のイベントとなってしまうため、館のコンセプトのつながり、広がるにつなげる工夫が必要である。

5 議題 (1) 令和7年度事業計画及び実施状況

【中央公民館・活動実績】 酒井根地域スマホ講座

実施のねらい

地域活動の側面でデジタル活用の必要性が求められてきており、デジタルの基本を学ぶ講座を実施。

日常生活の中でデジタル化が日々進む中、スマートフォンの基本操作から、日常生活での簡単便利機能、その先の少し応用的な機能や注意すべき事項等も学ぶことで、デジタルに対する不安を解消し、得られる情報量の格差是正につなげる。



活動の結果 (R7年7月時点・実施中)

実施回数 3回

活動の成果 (参加者の反応・やって見えたこと・わかったこと)

【わかったこと】

- ・地域活動でのデジタル化が必須となってきており、共催している酒井根地域ふるさと協議会の役員が熱心に講師の話に耳を傾けて、活動に取り入れていく姿勢が伺えた。
- ・3回目の講座の講師は中学生であったため、受講生は多世代交流を楽しみながらより活気のある講座となった。
- ・デジタル化の必要性を感じている地域であることから、講座が終了した後も、地域独自でデジタル化に向けた講座に取り組む準備をしていた。

5 議題（1）令和7年度事業計画及び実施状況

令和7年度事業計画・総合福祉センター

概要

個人や団体からの提案により、障害の有無・性別・世代を超え、誰もが参加できるイベント、講座、相談・居場所について、企画運営をしています。また、孤独・孤立などの課題を抱える方に対し、社会参加や活躍の機会提供等コーディネートを行っています。

区分	ねらい	講座や内容
多世代	対象を問わない参加・交流	アロマナイトヨガ、ゆるフラ、いまここダンス、DJイベント、生け花教室等
妊娠・子育て	子育てに係る学び、親子同士の交流	さわって遊ぼう！、おさがり交換会、親子deわくわくフェスタ等
児童健全育成	主として小中高生対象に、進路や将来目標につながる学習や体験	中学生限定e-sports大会、防災クイズで学ぼう、学生のためのスキンケア&メイク等
シニア・フレイル予防	スポーツや文化（IT関係含む）などのイベントを通じたフレイル予防	スマホ相談会、パソコン教室、転倒無視テスト推定歩行年齢をしよう！等
障害理解	イベントを通じた、障害の理解をはじめ、当事者との交流	親子で高齢者疑似体験
人材育成	ボランティア活動につながる講座や体験	夏ボラが楽しくなる説明会
居場所・相談支援	福祉ニーズを抱えた当事者や家族などが気軽に参加・利用できる居場所や相談	サロンかしわっ葉、手話カフェ、医ケアっこサロン、あ・えーるテラス
展示	絵などの作品披露の場、来館者への施設（空間）の彩り提供	絵、写真、習字等の展示

【総合福祉センター・事業紹介】 Summer Event&Summer Volunteer

夏休み期間に、主に学生向けのイベントやボランティアを募り、活動の中で、社会や福祉の課題に気づき、自分にできることを考えるきっかけにしてほしいと考えています。また、公共施設が誰もが安心して過ごせる身近な居場所であることを知ってもらい、探究学習や将来の学びにもつながる体験になることを目的としています。

個人、団体、企業等と連携事業を行っています。
開 催 数：39
連携団体数：66
応募者数：1,164件（7/29現在）



【参加者にとって】「居場所としてまた来たい」「この夏にしかできないことができた」
 【提案者にとって】「普段関わりのない世代と関わる中で、自分自身も学ぶことが多かった」
 【見えたこと】人との交流の中で、それぞれの中に“変化の芽”が芽生えていた
 【わかったこと】体験プログラムではなく、参加した人それぞれにとって“社会とつながる第一歩”になっていたと思います。

5 議題 (1) 令和7年度事業計画及び実施状況

【総合福祉センター・事業紹介】 あ・えーるテラス

実施のねらい

あ・えーるテラスは、誰でも気軽に立ち寄り、つながりをつくりながら、自分らしく過ごせる居場所です。

ただ過ごすだけでなく、「何かやってみたい」という気持ちを大切に、その一歩を応援します。この場所での経験が次のステップへ進む力になることを目指しています。



活動の結果 (R7年6月末時点)

様々な団体と連携し、居場所の提供をしています。

月・水・金曜日	あ・えーるテラス (パーク)	柏市社会福祉協議会
第2・4火曜日	10代20代の居場所 ほっとカフェ	かしわ地域若者サポートステーション
第3火曜日	就労支援プログラム・講座	柏市地域生活支援センター (あいネット)
第1・3木曜日	生きづらさを抱えた若者の居場所 “ふらっと4U”	キャリアデザイン研究所
第4木曜日	サロンかしわ葉	柏市心身障害者福祉連絡協議会

開所日数：56日 来所延べ人数：850人

活動の成果 (参加者の反応・やって見えたこと・わかったこと)

不安や悩みから、これまで一歩を踏み出せなかった方々が、「少しやってみよう」と思えるきっかけを得ることが、社会参加への大きな第一歩になることが分かりました。

安心できる環境や人とのつながりの中で、小さなチャレンジを重ねることで、自己肯定感が高まり、自分の可能性に気づく姿を目にしてきました。

こうした変化は、次のステップに進もうとする力につながっており、支援の重要性をあらためて実感しています。

5 議題

議題 1 令和 7 年度事業計画及び実施状況

- (1) 中央公民館事業
- (2) 総合福祉センター事業

議題 2 教福連携事業について

(1) ラコルタ柏フェスティバル開催に向けた進捗報告

ご議論いただきたい主な視点

参加団体が増加するような新たな取り組み

(2) 事業推進委員会（ＪＳＩ）について

ご議論いただきたい主な視点

提案企画について、長期アウトカムや中期アウトカムを達成させるために、必要な要素や意識ができているか

5 議題 (2) 教福連携事業

ラコルタ柏フェスティバル開催に向けた進捗報告

実施のねらい

- ・ラコルタ柏において、各種取組を行っている団体やサークル等が一堂に会して日頃の活動成果や作品などを発表し、来場者に団体活動のPRを行う。
- ・団体の主体性を高めるとともに、団体同士の交流を図る。



開催予定

令和7年11月8日及び9日



準備状況（実行委員会活動内容）

実行委員会 23団体が参加

スローガン：“世代を超えて広がる感動～わくわくが待っている、柏で楽しく学ぼう～”

令和7年4月12日（土）第5回ラコルタ柏フェスティバル第1回本部役員会

5月17日（土）第5回ラコルタ柏フェスティバル第1回実行委員会及び第2回本部役員会

6月14日（土）第5回ラコルタ柏フェスティバル第2回実行委員会及び第3回本部役員会

7月19日（土）第5回ラコルタ柏フェスティバル第3回実行委員会及び第4回本部役員会

※役員会は、第1回のみ10時～12時、第2回目以降12時～13時、実行委員会は、毎10時～12時

今年度の試み

- ・3～5階での物販解禁
- ・キッチンカーの導入
- ・部会の改変
- ・小学校の参加

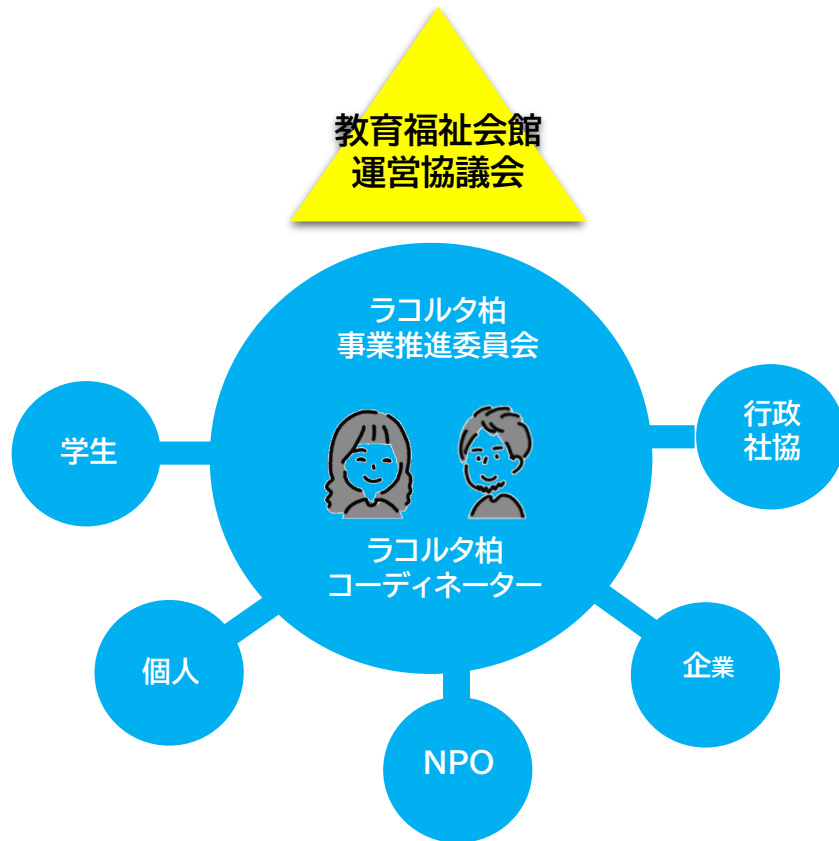


5 議題（2）教福連携事業

ラコルタ柏事業推進委員会(JSI)について

ラコルタ柏の目指すもの

様々な市民が集い、つながり、地域へひろがり
市民による自立的な地域活動による
地域共生社会の実現



<教育福祉会館運営協議会>

- ・ 条例で定められた附属機関であり、承認機関
- ・ 生涯学習及び地域福祉の有識者・地域づくり団体などで構成
- ・ 大所高所からのアドバイス
- ・ 運営内容のチェック機能

アドバイス・チェック機能

報告・成果確認

ラコルタ柏事業推進委員会

- ・ 中間支援者としてラコルタ柏コーディネーターが運営
- ・ ラコルタ柏の「目指す状態」に近づけるために、毎年度のロジックモデルを作成し、アクションを企画提案
- ・ アクションに必要なステークホルダーが集まり、実施

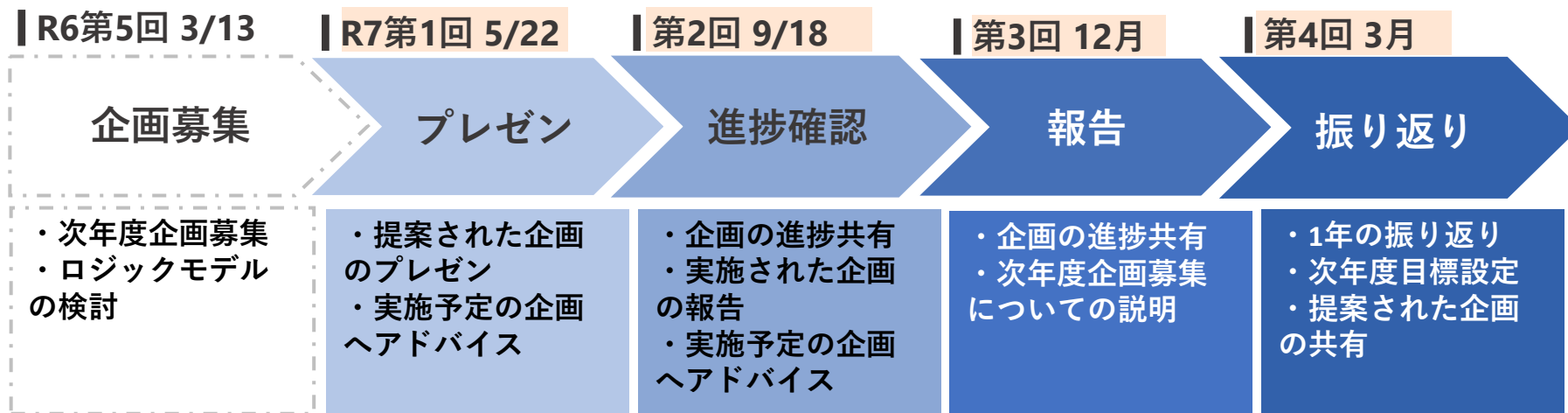
ラコルタ柏コーディネーターの役割

- ・ 事業推進委員会におけるテーマの設定及び参加者の決定等、会の運営
- ・ 市民と行政、市民とラコルタ柏をつなぐ役割
- ・ 生涯学習と地域福祉の接着・融合を期待
- ・ 事業の企画
- ・ 生涯学習・地域福祉のニーズの把握
- ・ 市社協を始めとし、ラコルタ柏の中間支援組織を増やす
- ・ ラコルタ柏の小さな主人公を増やす
- ・ 情報発信
- ・ 各団体の活動相談窓口(コンシェルジュ業務)

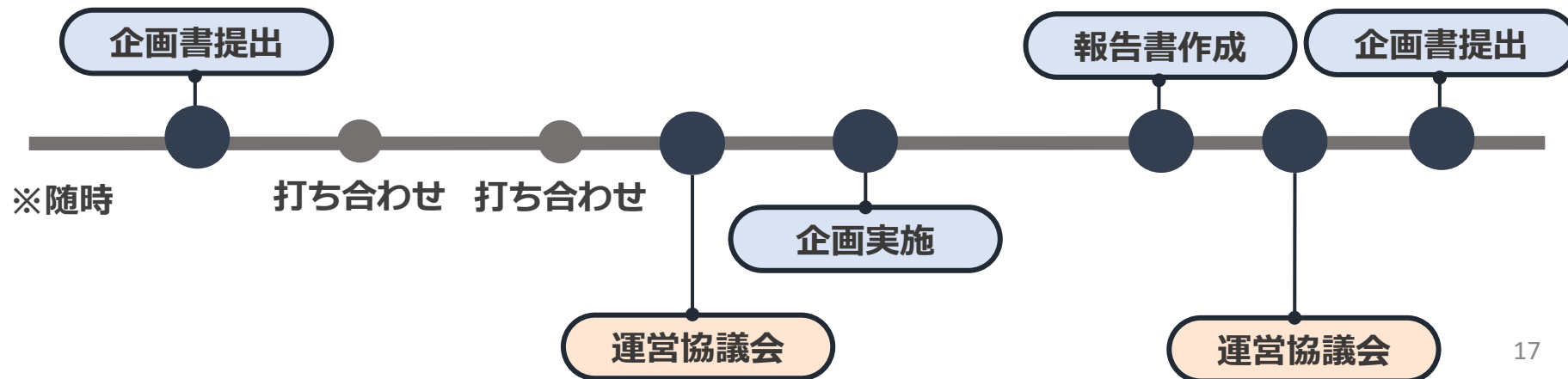
5 議題（2）教福連携事業

令和7年度ラコルタ柏事業推進委員会（JSI）の開催スケジュール

事業推進委員会の開催スケジュール

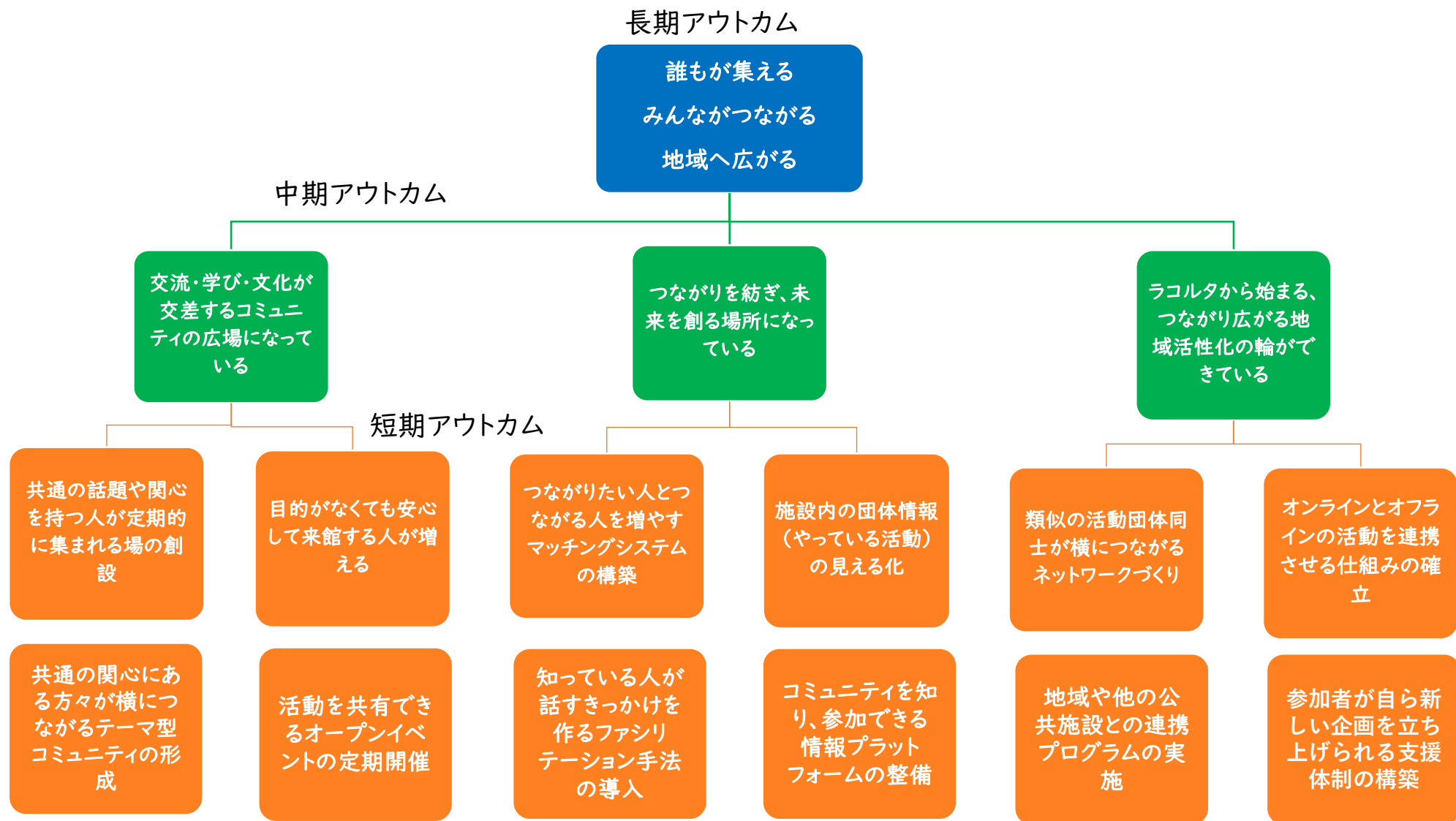


委員提案による企画の実施の流れ



5 議題（2）教福連携事業

令和7年度ラコルタ柏事業推進委員会（JSI）ロジックモデル



5 議題（2）教福連携事業

ラコルタ柏事業推進委員会(JSI) 委員提案企画

タイトル	企画概要	実施日
語るBar Andante（アンダンテ）	若者同士のコミュニティの希薄による「寂しい」気持ちを埋められるスナックやバーを模したサードプレイスを提供する	6月26日～継続開催
JSIニュースレター＆情報コーナー ブラッシュアップ	事業推進委員会や実施企画について、広報誌で周知を行う。館内設置の情報コーナーを整理し、発信力を高める	6月・9月・12月・3月 発行予定
夏ボラ実施の事前・事後に楽しめるワークショップ	夏休み期間のボランティア参加を表明した意欲的な若者に対して、事前事後学習の支援・深掘りを行う	8月2日・27日 ※中止
ヒロシマ絵本「あっちゃんも、」 上映会	原爆体験を音楽や映像とともに絵本の読み聞かせを実施する	8月24日
まちのトークルーム ※令和6年度から継続企画	悩みを聞けて、社会的処方ができる場所、いわば学校の保健室的な存在をラコルタにつくる	8月28日 ・11月9日
ぼうさいかるた	難しい防災用語をやさしい日本語と英語で説明する“ぼうさいかるた”を使って、ゲームとして防災を学ぶ機会を提供する	9月20日
もしバナゲーム+哲学対話deワタシの 「しょうがい」を体感してみない？ ※令和6年度から継続企画	福祉的な観点からの「障害」と生涯学習的な観点からの「生涯」にわたる学びをゲームと話し合うワークで考える	9月27日
選書キュレーションが開示する 「本」の可能性	これからの図書館のあり方を、地域と図書館が共に考えていく機会をつくる	10月下旬
道が割れたらどう進む？	能登半島の映像等をもとに、災害発生時、避難行動をする高齢者や障がい者が危険を伴うことへの理解を深める	12月7日
劇場のつどい	演劇創作を体験しながら、劇場の使用例や借り方、発表にいたるまでの過程を学ぶ	2月13日・20日
ラコルタ柏と柏市立図書館の間の 外部空間のプレイスメイキング	ラコルタ・図書館・地域団体の連携体制を構築し、両施設間に交流のための「動線」と「滞在空間」を創出する	実施検討中

5 議題（2）教福連携事業

令和7年度 提案企画の一部紹介

実施
中

語るBar Andante

提案者：大学生

【企画提案の背景】自身が高校生の頃から感じていた、「一人で寂しい」という気持ちを埋められる場所がないことや若者の出会いの場がなく孤立化が問題視されていることから、スナックやバーに模した居場所を提供することで、利用者と運営側や利用者同士の関わりをつくる。



ターゲット

メイン：高校生，大学生 サブ：サポートをする大人

寄与するロジックモデル (短期アウトカム)

つながりたい人とつなげる人を増やすマッチングシステムの構築

実施
予定

ぼうさいかるた

提案者：館の利用団体

【企画提案の背景】備えない防災“フェーズフリー”が求められているが、防災に関する学びのフェーズフリーは進んでいない。難しい防災用語をやさしい日本語と英語で説明する“ぼうさいかるた”を使うことで、ゲームとして防災を学ぶ機会を提供し、「防災」に関心のある方々同士の横の繋がりをつくる。



ターゲット

未就学児～小学生，高齢者や外国人など災害弱者の他，発災時の担い手として期待される中学生等

寄与するロジックモデル (短期アウトカム)

共通の関心にある方々が横につながるテーマ型コミュニティの形成